



総会で、各分野の報告や50年目の活動方針を確認する大野地球科学研究会のメンバー＝大野市陽明町

# 地球科学研究 没頭して50年

## 大野のグループ

### 化石や天文「地学好き裾野拡大」

大野市を拠点に活動している「大野地球科学研究会」が、現名称になって50年目に突入した。化石発掘や天文などの幅広い分野で、「大人の部活動」ともいえる調査・研究に没頭し半世紀。このほど総会を開き、化石のデータベース化や星空観察の次世代の人材育成などを進めていく方針を確認した。

(前田卓)

同会の前身は1973年、大野高の地学部出身者8人で「大野地球科学趣味の会」を結成した。77年に現名称に変更。大野市内で月1回の定例会、年1回の総会を開き情報交換を続けている。現在は市内外の20



データベース化に向け、化石と資料をチェックする大野地球科学研究会の前田さん(左)と高津さん(右)＝大野市内

天文分野では観望会や星空の出前授業、全国から天文研究者が集まる「彗星会議in大野」などを開催。それぞれの分野で、県や市からアドバイザーや一般向

け講座の講師を依頼されている会員も多い。3月28日に大野市陽明町の拠点で開いた総会には初代会長の前田裕一さん(77)ら12人が集まった。地質・古生物担当の高津琴博さん(61)は50周年の節目に向け、数千件に及ぶ化石や岩石をデータベース化し、公開可能なものをホームページに掲載していく方針を説明。今年の流星群の見どころや積雪の特徴に関する報告があり、若年層への浸透を図る方策についても意見を

を出し合った。発足から半世紀を迎え、4代会長の川田信行さん(69)は「若手にバトンを渡していきたい。次世代の地学好きな人たちの裾野を広げよう」と呼びかけた。ここ数年で20〜30代の会員も少しずつ加入しており、10年前に入会した山本久大さん(33)は「この会の活動は大野の自然と向き合う、大人の部活動みたいで楽しい。さらに50年続くように頑張りたい」と話していた。